

# 第20回 子どもの本この1年を振り返って 2019年



本資料の一部または全てを無断で転載・複製・加工することは固くお断りいたします

## ■おすすめ図書リストの見方

★	小低	『なまえのないねこ』/竹下 文子・文, 町田 尚子・絵/小峰書店/2019. 4/ ¥1500/(絵本)
---	----	---

特におすすめの図書は★で表示。「おすすめ図書紹介」で紹介しています

その図書に相当と思われる利用対象を表示しています

□図書の利用対象について  
利用対象の表記は以下の通りです。

「幼」=幼年

「中学」=中学校

「小低」=小学校低学年

「高校」=高校

「小中」=小学校中学年

「小高」=小学校高学年

□表記順について

各図書は、『書名 副書名(あれば)』(シリーズ名(同左)) / 責任表示 / 出版社 / 版年 / 金額(本体価格) / 分類 の順で記載しています。

絵本

	幼	『かわにくまがおっこちた』/リチャード・T. モリス・著, レウイン・ファム・絵, 木坂 涼・訳/岩崎書店/2019. 8/¥1500/(絵本)
--	---	--

上下巻・全集などの場合

★	小高	『はじめての万葉集 上』/萩原 昌好・編, 中島 梨絵・絵/あすなろ書房/2019. 7/¥1600/(911. 12)
---	----	--

	小高	『プログラミングガールズ! 1 ルーシーなぞのメッセージを追え』/ステイシア・ドイツ・作, 美馬 しょうこ・訳, 高橋 由季・絵, 石戸 奈々子・監修/偕成社/2019. 7/¥1200/(933. 7)
--	----	--

『書名 巻数 副書名(あれば) 巻書名(同左)』(シリーズ名(同左)) / 責任表示 / 出版社 / 版年 / 金額(本体価格) / 分類 の順で記載しています。

本資料に掲載された「おすすめ図書リスト」は、「子どもの本2019」各選者の判断に基づき、お薦め図書として選書されたものです。

選書された図書の内容について保証もしくは宣伝するものではありませんので、図書リストは「おすすめ図書紹介」と併せてご覧いただき、皆様ご自身の判断に基づいて、ご参照くださいますようお願いいたします。

■フィクションの部■

児童書選書委員会 渡辺 敬子

2019年のフィクションを振り返って

- ① 低学年・中学年の低迷  
2014年、「低学年」は豊作だった！？ 今は??  
手渡すこと、紹介することの大切さ
- ② リアル系とファンタジー系  
リアル健在  
社会問題をテーマにした作品  
貧困・高齢化・難民の問題など
- ③ 難民の問題や異文化理解をテーマにした作品  
読者対象の低年齢化
- ④ 図書館大活躍！！  
図書館が舞台となる作品  
司書の存在
- ⑤ 生きづらさの中で  
障がいを乗り越える

## ■難民の問題や異文化理解

★	小高	『5000キロ逃げてきたアーメット』(ティーンズ文学館)/オンジャリ・Q・ラウフ・作, 久保 陽子・訳/学研プラス/2019. 12/¥1500/(933. 7)
★	小高	『となりのアブダラくん』/黒川 裕子・作, 宮尾 和孝・絵/講談社/2019. 11/¥1400/(913. 6)
	小高～ 中学	『11番目の取引』(鈴木出版の児童文学)/アリッサ・ホリングスワース・作, もりうち すみこ・訳/鈴木出版/2019. 6/¥1600/(933. 7)

## ■図書館大活躍！！

★	小高	『貸出禁止の本をすくえ！』/アラン・グラッツ・著, ないとう ふみこ・訳/ほるぷ出版/2019. 7/¥1500/(933. 7)
★	小高	『希望の図書館』(ポプラせかいの文学 5)/リサ・クライン・ランサム・作, 松浦 直美・訳/ポプラ社/2019. 11/¥1500/(933. 7)
	小高	『夏休みに、ぼくが図書館で見つけたもの』(スプラッシュ・ストーリーズ 37)/濱野 京子・作, 森川 泉・絵/あかね書房/2019. 11/¥1200/(913. 6)
	小高～ 中学	『しずかな魔女』(物語の王国 2-13)/市川 朔久子・作/岩崎書店/2019. 6/¥1300/(913. 6)

## ■生きづらさの中で

★	小高～ 中学	『飛ぶための百歩』/ジュゼッペ・フェスタ・作, 杉本 あり・訳, まめふく・イラスト/岩崎書店/2019. 8/¥1400/(973)
★	小高～ 中学	『蝶の羽ばたき、その先へ』/森埜 こみち・作/小峰書店/2019. 10/¥1400/(913. 6)
	小高～ 中学	『星くずクライミング』(くもんの児童文学)/樫崎 茜・作, 杉山 巧・画/くもん出版/2019. 11/¥1300/(913. 6)

## ■幼年文学

	小低	『ウィリーのぼうけん』(世界傑作童話シリーズ)/マーガレット・ワイズ・ブラウン・さく, 上條 由美子・やく, 広野 多珂子・え/福音館書店/2019. 1/¥1100/(933. 7)
	小低	『ハヤクさん一家とかしこいねこ』/マイケル・ローゼン・作, トニー・ロス・絵, ないとう ふみこ・訳/徳間書店/2019. 8/¥1300/(933. 7)
★	小低	『たのしいまきばのイースター』/ロイス・レンスキー・作・絵, 佐藤 淑子・訳/徳間書店/2019. 2/¥1700/(933. 7)

	小低	『物語 たくさんのお月さま』/ジェームズ・サーバー・作, ルイス・スロボドキン・絵, なががわ ちひろ・訳/徳間書店/2019. 4/¥1700/(933. 7)
★	小低	『ヤナギ通りのおばけやしき』/ルイス・スロボドキン・作, 小宮 由・訳/瑞雲舎/2019. 9/¥1500/(933. 7)
	小低	『となりはリュウくん』(とっておきのどうわ)/松井 ラフ・作, 佐藤 真紀子・絵/PHP研究所/2019. 8/¥1200/(913. 6)
	小低	『セミクジラのぬけがら ミッチの道ばたコレクション』/如月 かずさ・作, コマツ シンヤ・絵/借成社/2019. 8/¥1200/(913. 6)
	小低	『しぶがきほしがきあまいかき』(福音館創作童話シリーズ)/石川 えりこ・さく・え/福音館書店/2019. 9/¥1100/(913. 6)
	小低	『やまねこのこんにちは』/はせがわ さとみ・作/あかね書房/2019. 10/¥1200/(913. 6)

## ■文化・歴史

	小高	『もえぎ草子』(くもんの児童文学)/久保田 香里・作, tono・画/くもん出版/2019. 7/¥1500/(913. 6)
★	小高	『きつねの橋』/久保田 香里・作, 佐竹 美保・絵/借成社/2019. 9/¥1400/(913. 6)
	小高	『新選組戦記 上 THE SHINSENGUMI'S WAR』/小前 亮・作, 遠田 志帆・絵/小峰書店/2019. 11/¥1500/(913. 6)
★	小高～ 中学	『思いはいのり、言葉はつばさ』/まはら 三桃・著, まめふく・装画/アリス館/2019. 7/¥1400/(913. 6)

## ■家族・絆

★	小高	『いつか、太陽の船』/村中 李衣・作, こしだ ミカ・絵/新日本出版社/2019. 3/¥1500/(913. 6)
	小高	『きつねの時間』(フレーベル館文学の森)/蓼内 明子・作, 大野 八生・絵/フレーベル館/2019. 9/¥1400/(913. 6)
★	小高	『クレンショーがあらわれて』(フレーベル館文学の森)/キャサリン・アップルゲイト・作, こだま ともこ・訳, まめふく・絵/フレーベル館/2019. 10/¥1400/(933. 7)
	小高	『中くらいの幸せの味』/みとみ とみ・作, 岡田 千晶・絵/国土社/2019. 10/¥1400/(913. 6)
	小高	『ほんとうの願いがかなうとき』/バーバラ・オコーナー・著, 中野 怜奈・訳/借成社/2019. 12/¥1600/(933. 7)

## ■学校・友達

	小中	『あららのはたけ』/村中 李衣・作, 石川 えりこ・絵/偕成社/2019. 7/¥1400/(913. 6)
★	小中	『手と手をぎゅつとにぎったら』(こころのつばさシリーズ)/横田 明子・作, くすはら 順子・絵/佼成出版社/2019. 6/¥1300/(913. 6)
	小中	『うそつきタケちゃん』(文研ブックランド)/白矢 三恵・作, たかおか ゆみこ・絵/文研出版/2019. 7/¥1300/(913. 6)
	小中	『ハンカチともだち』/なかがわ ちひろ・作/アリス館/2019. 11/¥1400/(913. 6)
	小高	『ぼくは本を読んでいる。』/ひこ・田中・著/講談社/2019. 1/¥1400/(913. 6)
	小高	『バドミントン★デイズ』(偕成社ノベルフリーク)/赤羽 じゅんこ・作, さかぐち まや・絵/偕成社/2019. 2/¥900/(913. 6)
	小高	『チギータ!』(ノベルズ・エクスプレス 45)/蒔田 浩平・作, 佐藤 真紀子・絵/ポプラ社/2019. 3/¥1300/(913. 6)
	小高	『からくり探偵団 茶運び人形の秘密』/藤江 じゅん・作, 三木 謙次・絵/KADOKAWA/2019. 3/¥850/(913. 6)
	小高	『天オルーシーの計算ちがい』(講談社・文学の扉)/ステイシー・マカナルティ・著, 田中 奈津子・訳/講談社/2019. 4/¥1500/(933. 7)
★	小高	『昔はおれと同年だった田中さんとの友情』(ブルーバトンブックス)/椰月 美智子・作, 早川 世詩男・絵/小峰書店/2019. 8/¥1400/(913. 6)
	小高	『今、空に翼広げて』/山本 悦子・著, くまおり 純・絵/講談社/2019. 10/¥1500/(913. 6)
	小高～ 中学	『長浜高校水族館部!』/令丈 ヒロ子・文, 紀伊 カンナ・絵/講談社/2019. 3/¥1500/(913. 6)
	小高～ 中学	『ぼくにだけ見えるジェシカ』/アンドリュー・ノリス・作, 橋本 恵・訳/徳間書店/2019. 2/¥1500/(933. 7)
	小高～ 中学	『天使のにもつ』/いとう みく・著, 丹下 京子・絵/童心社/2019. 2/¥1300/(913. 6)
	小高～ 中学	『みかん、好き?』/魚住 直子・著/講談社/2019. 9/¥1400/(913. 6)

## ■戦争と平和

★	小高	『夏に降る雪』(フレーベル館文学の森)/あんず ゆき・作, 佐藤 真紀子・絵/フレーベル館/2019. 7/¥1400/(913. 6)
---	----	--

	小高～ 中学	『子犬たちのあした ロンドン大空襲』/ミーガン・リクス・作, 尾高 薫・訳/徳間書店/2019. 1/ ¥1600/(933. 7)
--	-----------	---

### ■ファンタジー・SF・冒険

	小中	『ぼくちの海賊トレジャ』/柏葉 幸子・作, 野見山 響子・絵/偕成社/2019. 7/¥1200/(913. 6)
	小中	『森のクリーニング店シラギクさん』(スプラッシュ・ストーリーズ 36)/高森 美由紀・作, jyajya・絵/あかね書房/2019. 9/¥1200/(913. 6)
★	小中～ 小高	『嵐をしずめたネコの歌』/アントニア・バーバー・作, ニコラ・ベイリー・絵, おびか ゆうこ・訳/徳間書店/2019. 3/¥1700/(933. 7)
	小中～ 小高	『秘密に満ちた魔石館』/廣嶋 玲子・作, 佐竹 美保・絵/PHP研究所/2019. 8/¥1000/(913. 6)
	小高	『ポーン・ロボット PAWN ROBOT』/森川 成美・作, 田中 達之・絵/偕成社/2019. 3/¥1200/(913. 6)
★	小高	『月の光を飲んだ少女』/ケリー・バーンヒル・著, 佐藤 見果夢・訳/評論社/2019. 5/¥1600/(933. 7)
	小高	『月白青船山』/朽木 祥・作/岩波書店/2019. 5/¥1900/(913. 6)
	小高	『アトリと五人の王』/菅野 雪虫・著/中央公論新社/2019. 6/¥1700/(913. 6)
★	小高～ 中学	『つくられた心 Artificial soul』(teens' best selections 50)/佐藤 まどか・作, 浦田 健二・絵/ポプラ社/2019. 2/¥1400/(913. 6)
	小高～ 中学	『イナバさん!』/野見山 響子・作/理論社/2019. 12/¥1500/(913. 6)

### ■復刊・再刊・新装版

★	小低	『もりのゆうびんポスト』(本はともだち 16)/原 京子・作, 高橋 和枝・絵/ポプラ社/2019. 5 (そうえん社 2007年刊のリニューアル)/¥1100/(913. 6)
★	小低	『もりのともだち、ひみつのともだち』(本はともだち 17)/原 京子・作, 高橋 和枝・絵/ポプラ社/2019. 5/¥1100/(913. 6)
★	小中	『ムーミン全集 1 新版 ムーミン谷の彗星』/トーベ・ヤンソン・著/講談社/2019. 3/¥1500/(949. 83)
	小中	『ムーミン全集 2 新版 たのしいムーミン一家』/トーベ・ヤンソン・著/講談社/2019. 6/¥1500/(949. 83)



	小中	『ムーミン全集 3 新版 ムーミンパパの思い出』/トーベ・ヤンソン・著/講談社/2019. 6/¥1600/(949. 83)
	小中	『ムーミン全集 4 新版 ムーミン谷の夏まつり』/トーベ・ヤンソン・著/講談社/2019. 8/¥1500/(949. 83)
	小中	『キバラカと魔法の馬 アフリカのふしぎばなし』(岩波少年文庫 247)/さくま ゆみこ・編訳/岩波書店/2019. 3(富山房 1979年刊の再刊)/¥640/(994)
	小中～ 小高	『名探偵カッレ 城跡の謎』(リンドグレン・コレクション)/アストリッド・リンドグレン・作, 菱木 晃子・訳, 平澤 朋子・絵/岩波書店/2019. 9/¥2000/(949. 83)
	小中～ 小高	『やかまし村の子どもたち』(リンドグレン・コレクション)/アストリッド・リンドグレン・作, イングリッド・ヴァン・ニイマン・絵, 石井 登志子・訳/岩波書店/2019. 6/¥1650/(949. 83)
	小高	『魔法のカクテル』(岩波少年文庫 249)/ミヒヤエル・エンデ・作, 川西 芙沙・訳/岩波書店/2019. 10(1992年刊の再刊)/¥760/(943. 7)

## ■詩・和歌

	小低	『ぞうさん まど・みちお詩集』/まど みちお・詩/童話屋/2019. 1/¥1500/(911. 56)
★	小低～ 小高	『わくわく こども詩集』/全国学校図書館協議会・編, 田中 和雄・編/童話屋/2019. 7/¥1500/(911. 568)
★	小高	『はじめての万葉集 上』/萩原 昌好・編, 中島 梨絵・絵/あすなろ書房/2019. 7/¥1600/(911. 12)
	小高	『はじめての万葉集 下』/萩原 昌好・編, 中島 梨絵・絵/あすなろ書房/2019. 7/¥1600/(911. 12)

## ■新シリーズ

	小高	『プログラミングガールズ! 1 ルーシーなぞのメッセージを追え』/ステイシア・ドイツ・作, 美馬 しょうこ・訳, 高橋 由季・絵, 石戸 奈々子・監修/偕成社/2019. 7/¥1200/(933. 7)
	小高	『プログラミングガールズ! 2 ソフィア ロボット・レースに参戦』/ステイシア・ドイツ・作, 美馬 しょうこ・訳, 高橋 由季・絵, 石戸 奈々子・監修/偕成社/2019. 11/¥1200/(933. 7)
★	小高	『引っ越しなんてしたくない! バンダビーカー一家は五人きょうだい』/カーリーナ・ヤン・グレーザー・作・絵, 田中 薫子・訳/徳間書店/2019. 11/¥1700/(933. 7)
★	小高	『ネバームーア モリガン・クロウの挑戦』/ジェシカ・タウンゼント・著, 田辺 千幸・訳/早川書房/2019. 12/¥1900/(933. 7)

■シリーズ続刊

	小低	『ぼくは気の小さいサメ次郎といひます』(借成社おはなしポケット)/岩佐 めぐみ・作, 高畠 純・絵/借成社/2019. 7/¥1200/(913. 6)
★	小低	『あたまをつかった小さなおばあさんがんばる』(世界傑作童話シリーズ)/ホープ・ニューウェル・作, 松岡 享子・訳, 降矢 なな・絵/福音館書店/2019. 11/¥1500/(933. 7)
★	小低	『あたまをつかった小さなおばあさんのんびりする』(世界傑作童話シリーズ)/ホープ・ニューウェル・作, 松岡 享子・訳, 降矢 なな・絵/福音館書店/2019. 11/¥1500/(933. 7)
	小中	『ふしぎなようせい人形』(四つの人形のお話 4(全4巻完結))/ルーマー・ゴッデン・作, 久慈 美貴・訳, たかお ゆうこ・絵/徳間書店/2019. 1 (「クリスマスのようせい」(福武書店 1989年刊)の改題)/¥1400/(933. 7)
	小中	『サムとぶらぶら またまたおめでたこぶた』(世界傑作童話シリーズ)/アリソン・アトリー・作, すがはら ひろくに・訳, やまわき ゆりこ・画/福音館書店/2019. 3/¥1200/(933. 7)
	小中	『ソラタとヒナタ みえない星空』(わくわくライブラリー)/かんの ゆうこ・さく, くま あやこ・え/講談社/2019. 5/¥1300/(913. 6)
	小中	『ワンダ・ガアグ グリムのゆかいなおはなし』/グリム・著, ワンダ・ガアグ・編・絵, 松岡 享子・訳/のら書店/2019. 5/¥1300/(943. 6)
	小中	『ハートウッドホテル 2 ねずみのモナと最高のおくりもの』/ケイリー・ジョージ・作, 久保 陽子・訳, 高橋 和枝・絵/童心社/2019. 1/¥1300/(933. 7)
	小中	『ハートウッドホテル 3 ねずみのモナとはじめてのジェラシー』/ケイリー・ジョージ・作, 久保 陽子・訳, 高橋 和枝・絵/童心社/2019. 10/¥1300/(933. 7)
	小中	『アンバー・ブラウンのなつやすみ』(文研ブックランド)/ポーラ・ダンジガー・作, 若林 千鶴・訳, むかい ながまさ・絵/文研出版/2019. 1/¥1300/(933. 7)
	小中	『アンバー・ブラウンとブランディ』(文研ブックランド)/ポーラ・ダンジガー・作, 若林 千鶴・訳, むかい ながまさ・絵/文研出版/2019. 4/¥1300/(933. 7)
	小中	『落語少年サダキチ さん』/田中 啓文・作, 朝倉 世界一・画/福音館書店/2019. 5/¥1400/(913. 6)
	小中	『ヤービの深い秋』(Tales of Madguide Water 2)/梨木 香歩・著, 小沢 さかえ・画/福音館書店/2019. 8/¥1700/(913. 6)
	小中	『菜の子ちゃんとマジムの森』(福音館創作童話シリーズ)/富安 陽子・作, 蒲原 元・画/福音館書店/2019. 10/¥1400/(913. 6)
	小中～小高	『ピッピ南の島へ』(リンドグレーン・コレクション)/アストリッド・リンドグレーン・作, イングリッド・ヴァン・ニイマン・絵, 菱木 晃子・訳/岩波書店/2019. 2/¥1650/(949. 83)
	小中～小高	『妖怪一家のウェディング大作戦』(妖怪一家九十九さん 8)/富安 陽子・作, 山村 浩二・絵/理論社/2019. 2/¥1300/(913. 6)
	小中～小高	『西遊記 13 風の巻』(齊藤洋の西遊記シリーズ 13)/呉 承恩・作, 齊藤 洋・文, 広瀬 弦・絵/理論社/2019. 6/¥1500/(923. 5)
★	小高	『シャイローと歩く秋』/フィリス・レイノルズ・ネイラー・著, さくま ゆみこ・訳, 岡本 順・画/あすなろ書房/2019. 8/¥1400/(933. 7)

小高	『夢の森のティーパーティー』(シノダ！ 11)/富安 陽子・著, 大庭 賢哉・絵/偕成社/2019. 10/¥1300/(913. 6)
小高	『ステラ・モンゴメリーの冒険 2 お屋敷の謎』/ジュディス・ロッセル・作, 日当 陽子・訳/評論社/2019. 8/¥1800/(933. 7)
小高～ 中学	『わたしがいどんだ戦い1940年』/キンバリー・ブルベーカー・ブラッドリー・作, 大作 道子・訳/評論社/2019. 7/¥1800/(933. 7)
小高～ 中学	『ナイスキャッチ！ 5(全5巻完結)』/横沢 彰・作, スカイエマ・絵/新日本出版社/2019. 1/¥1400/(913. 6)
小高～ 中学	『火狩りの王 2 影ノ火』/日向 理恵子・作, 山田 章博・絵/ほるぷ出版/2019. 5/¥1600/(913. 6)

## 公益財団法人図書館振興財団

### 第20回 子どもの本 この1年を振り返って 2019年 おすすめ図書紹介

#### ■フィクションの部■

児童書選書委員会 渡辺 敬子

#### ■2019年のフィクション

私は現在、新宿区の公共図書館において、児童サービスを担当しています。また、図書館振興財団の児童書選書委員会で毎月、絵本・フィクション・ノンフィクションのお薦めの新刊本の選書を行っています。その会で話題になった本、評価の高かった本などを中心に、紹介していきたいと思っています。

今回、皆さんに紹介する本を選ぶにあたり、選書委員会の皆さんと話し合い、いろいろなご意見をいただきました。しかし、最終的には私自身が判断し、ふるいにかけて残った本がここにありません。ですから、違う方がふるいにかけて、違う本が残ったかもしれません。それは当たり前のことで、人それぞれ、物の見方や感じ方、価値観が異なるわけですから、評価が異なることはあります。大事なことは、皆さんは皆さんのふるいを持っていただき、他の人から勧められた本をそのまま子ども達に手渡すのではなく、必ずご自分のふるいにかけてから、紹介していただければと思います。

まず、2019年を5つのキーワードに沿って、簡単に振り返ってみたいと思います。

キーワードその1「小学校低学年・中学年向け作品の低迷」。

2018年に出版されたフィクションの中から、お薦めしたい本をピックアップし、それを対象年齢別に並べてみて気づいたことは、高学年向けの本が多く出版されているのに対し、低学年・中学年対象の本が少ないということでした。私は5年前にもイベント「子どもの本」で、「フィクションの部」のお薦め本の紹介をさせていただきましたが、その時は、各出版社が競うように幼年文学のシリーズ物を出版していました。絵本から物語へと、1人読みを始める大事な時期にある子どもたちに向けた本づくりに各出版社が力を入れていたのに、どうしたのでしょうか。やはり、出版不況が原因のひとつかとも思います。売れないから作らない。売れないから作れない。もちろん、多数売れている本もあります。「テレビで見て知っている話だから」「子どもが読みたがるから」といって親が購入する本に対し、心の栄養となる本が負けている気がします。だからこそ、子どもの本に携わる私たちが、もっと良い本をアピールしていかななくてはならないと思います。

キーワードその2「リアル系とファンタジー系」。

これもここ数年の傾向ですが、フィクション作品を「リアル系」と「ファンタジー系」の2つに大きく分けてみると、リアル（現実）な世界を舞台とした作品が主流となっています。「リアル健在」といったところですか。また、子ども達の身の回りのリアルを描く作品から更に広がり、社会問題をテーマとした作品も目立ってきました。貧困、高齢化、難民の問題など、小学生向けの本にも数多く登場してきています。以前であれば、YAなどに向けたテーマが対象年齢を下げている、近年、高学年を対象とした本が多くなっているように推測されます。

### キーワードその3 「難民の問題や異文化理解」。

難民の問題や異文化理解について取り上げた作品は、フィクションに限らず、絵本やノンフィクションの分野でも多く出版されています。これまで、フィクションにおいて難民というテーマは、YAを対象とした作品に多く見られました。それが昨年では、読者対象が低年齢化した物語が目を引きました。対象が違えば、作品で描かれる世界も異なります。YA向けの作品では、祖国を追われ、新しい国に向かうまでの困難な様子がこれでもかとリアルに描かれていて、読んでいて辛くなるものもありました。それに対し小学生向けの作品では、難民として転校してきた子を、主人公たちがどのように理解し、受け入れ、助けていこうかという姿が描かれています。難民に限らず、異なる文化を持つ子どもに対しても同様でした。

### キーワードその4 「図書館大活躍！！」。

昨年は図書館を舞台にした作品も多くありました。公共図書館のみならず、学校図書館も舞台として描かれ、中には、司書が活躍する姿を見られる物語もあり、図書館員としては嬉しく感じました。こういう作品を通して、子ども達が図書館に興味を持ってくればよいなと思います。

### キーワードその5 「生きづらさの中で」。

さまざまな生きづらさを抱えている主人公が、それを乗り越え生きていく姿を描いた作品も、数多く出版されています。一昨年は、LGBTQをテーマにした作品が目立ちましたが、昨年は障がいを持つ子ども達が、思いを自らの言葉で語った作品が目を引きました。

## ■難民の問題や異文化理解

最初に紹介するのは、『5000キロ逃げてきたアーメット』（学研プラス）です。

舞台はイギリスのロンドン。9歳のアレクサという女の子のクラスに、シリアからの転校生アーメットがやってきます。彼は「びくびくして、悲しそうな顔をしている」ので、アレクサは友達になろうと決心します。その後、彼女はアーメットがシリアからの難民だと知り、難民とは何かを母親に尋ねます。この場面での母親の説明は的確で、アレクサばかりでなく、読み手の子ども達にも分かりやすい内容です。

学校では、アレクサのようにアーメットと友達になろうとする子もいれば、いじわるをする子もいます。ある日、アーメットが大事にしている赤いリュックが汚され、何をされても泣かなかった彼が、そこではじめて泣きます。アレクサの担任の先生は、彼がどのようにしてシリアからロンドンに来たのかを発表させます。そこで子どもたちは、アーメットが持つリュックの意味を理解するのです。アレクサは親友達とともに、アーメットの家族を見つけ出そうと奮闘します。この奮闘ぶりは、9歳の子供ならではの発想と一途さにあふれています。難民の問題が、アレクサと同じ年代の子ども達にも分かりやすい形で書かれている作品としてお薦めです。

『となりのアブダラくん』（講談社）は、日本が舞台のお話です。主人公は6年生のハルヤという男の子。ハルヤのクラスに、パキスタンから転校生がやってきます。その転校生はニコリともせず、自分のことを「アブダラくん」と自己紹介しますが、もちろん本名ではありません。なぜ、こう名乗ったのかは、後ほど分かります。ハルヤは、アブダラくんのお世話係に任命されます。ちょっとマイペースな転校生に戸惑いながらも、だんだん心を寄せていきます。アブダラくんの一家は

イスラム教徒で、彼らが日本にやってきたのには理由がありました。イスラム教徒には食事の制限やお祈りなど、異なる文化があります。それに対する学校側の配慮も、「ひいきだ」と抗議する保護者がいて、ハルヤはアブダラクンのことやイスラム教のことをみんなに正しく知ってもらいたいと立ち上がります。子供向けの作品ですが、大人が読んでも考えさせられる要素がたくさんあり、特に物語最後の、普段はやる気の無いように見えた校長先生の言葉は、教育関係者には是非とも読んでももらいたいと思います。

この2つの作品は、「難民・異文化理解」というテーマで紹介しましたが、「学校・友達」というテーマで紹介することも出来るように思います。異なる国から来た友達を理解し、助けようという、主人公たちの気持ちがよく伝わってくる作品です。

## ■図書館大活躍！！

続いて「図書館大活躍」というテーマからは、『貸出禁止の本をすくえ！』（ほるぷ出版）。

主人公は4年生のエイミー・アンという本が大好きな女の子。彼女は自分の思っていることを口に出せない、内気な子です。ある日、いつものように学校図書館に大好きな本を借りに行ったら、なんとその本は貸出禁止になっていました。教育委員会からの命令ということで、それに反対する学校司書の訴えも退けられたようです。なんということでしょう！本を救うために、エイミーと友人達は行動を起こします。最初は、言いたいことが言えない主人公に歯がゆい気持ちを感じましたが、徐々に彼女が変化し、しっかり自分の意見を言えるようになっていくのは読んでいて気持ちが良かったです。最後に、教育委員会と子ども達が対決するシーンがありますが、そこはスカッとした気持ちになります。この作品で教育委員会が貸出禁止にする作品は、実際に少なくとも一度はアメリカでそういう憂き目に合った本とのことで驚きました。是非、皆さんも本作を読んで驚いてください。

『希望の図書館』（ポプラ社）は、1946年のアメリカが舞台です。南部のアラバマから父と2人、シカゴにやってきた黒人の男の子、ラングストンが主人公。母親は故郷で亡くなりました。母の死や貧しい暮らし、学校でのいじめに苦しむ彼は、シカゴの公共図書館で、自分と同じ名前の詩人の本を見つけます。そして、本が大好きだった彼の母の思いも知ります。少年を支え、生きる力を与えた図書館。時代背景や社会状況は、今の日本の子ども達には少し馴染みがないかもしれませんが、しみじみとした味わいのある本です。

## ■生きづらさの中で

『飛ぶための百歩』（岩崎書店）。イタリアの作家の作品です。14歳のルーチョという男の子が主人公。彼は5歳で視力を無くし、頑なに人に頼ることを拒んでいます。おばさんと登山していても、手を繋ごうとはせず、かろうじてスカーフで繋がっている状態。おばさんと訪れた山小屋で、ルーチョはキアーラという同い年の少女や山岳ガイドの男性に出会います。この物語は、山にいるワシの雛、怪しい2人組の男たち、そしてルーチョの3つの視点から描かれています。これらが綾なす糸のように、物語は進んでいきます。場面の展開は映画を見るようでした。キアーラ達との出会いや山での体験によって、主人公の頑なな心がほぐれていく様子が、上手く描かれています。

『蝶の羽ばたき、その先へ』（小峰書店）。14歳の森川結は中学2年生の春、左耳に違和感を覚えます。でも誰にも言えません。1か月後、ようやく母に打ち明けて一緒に病院に行ったところ、突発性難聴と診断されます。この病気は早期に治療が必要なもので、結の場合はもう直すことは出来ないと言われます。左耳が聞こえなくなったことを親友にも伝えられず、結は落ち込みます。そんな中、手話サークルで、同じような境遇でありながら前向きに生きている女性と出会い、結は変わっていきます。突然の出来事に戸惑い、嘆く主人公の気持ちや、周りの助けにより、前向きになろうとする主人公の姿が等身大に描かれた作品です。

## ■幼年文学

「幼年文学」から2冊紹介します。

1冊目は『[たのしいまきばのイースター](#)』（徳間書店）です。牧場で動物たちの世話をしている女の子アン・イライザに、動物たちがイースターの贈りものをしようと計画するお話です。80年前に書かれた作品ですが、古さを感じさせません。イースターも、今の日本ではだいぶ知られるようになりましたが、まだハロウィンほどの知名度のある行事ではありません。イースターを知るのにぴったりの本ではないかと思えます。

もう1冊は『[ヤナギ通りのおばけやしき](#)』（瑞雲舎）。舞台はヤナギ通りのある街。ハロウィンの夜に不思議なことが起こります。だれもいないと思って、子どもたちが「おばけやしき」と呼んでいた家に灯がともっていたのです。「いたずらか、おかしか」と子どもたちが扉をたたくと、中から出てきたのは…。意外な展開に驚きながらも、思わず微笑んでしまうお話です。

2冊とも挿し絵に温かみがあり、内容もほほえましく、子ども達に安心して手渡せる本です。

## ■文化・歴史

「文化・歴史」というテーマで紹介するのは、『[きつねの橋](#)』（偕成社）。

作者の久保田さんは奈良時代や平安時代を舞台にした作品を多く書かれている作家さんです。平安時代の京都の町で、源頼光の家来となった平貞道という15歳の青年が、仲間とともに盗賊退治をしたり、妖怪のキツネが仕えるお姫様を守ったりと活躍する物語です。本作品では、教科書で目にする有名な人物の少年時代の姿も描かれています。藤原道長です。藤原兼家の五男で「五の君」と呼ばれた道長の、のちの栄華を暗示させるようなエピソードも面白いです。当時の社会の様子や人々の生き方も生き生きと描かれ、このような作品を通して、子ども達が歴史に興味を持つようになればいいなと思いました。

中国が舞台の『[思いはいのり、言葉はつばさ](#)』（アリス館）。女書(ニューシュ)という、女性だけが読み書きできる文字に夢中になった女の子、チャオミンの物語です。女書は中国・湖南省で実際に伝承されてきた文字であるそうです。この文字に込められた女性達の思いはどういうものだったのでしょうか。作者のまはら三桃さんは、実際にこの文字を見て心打たれ、この作品を書いたと「あとがき」にありました（p. 250）。日本の子ども達が理解するには少し難しいところもありますが、このような文化もあったことを知ることができる物語です。



## ■家族・絆

続いて紹介するのは「家族」をテーマにした作品です。『いつか、太陽の船』（新日本出版社）。12歳の海翔は6年前、東日本大震災に遭い、気仙沼から北海道の根室の港町に引っ越してきました。震災で愛犬を失った悲しみや、周りとは比べ前向きになれない自分と葛藤する日々を過ごしています。しかし、ベトナムからの研修生の姿を見たり、両親の思いを知ったりする内に、彼自身も変わっていきます。ある1羽のかもめとの触れ合いを通じ、自分の進むべき道を見つけていく少年の物語です。今なお震災を風化させず、語り続けていこうとする作者の心意気を感じられる作品です。

『クレンショーがあらわれて』（フレーベル館）。主人公は5年生の少年ジャクソン。彼が浜辺でサーフィンをする猫に出会う場面から、物語は始まります。その猫は誰にも見えませんが、ジャクソンはその猫を知っていました。3年前に初めて出会ったクレンショーです。父親が病気になって働けなくなり、ジャクソン一家は住んでいた家を追い出され、車の中で生活することになります。その時、ジャクソンの目の前に現れたのがクレンショーでした。そして、ジャクソンの目の前に再び現れたクレンショー。毎日の食事にも事欠く生活、先の見えない生活に不安を感じるジャクソンに、クレンショーは「本当のことをいえ」とアドバイスします。今、日本では6人に1人の子どもが貧困の問題にさらされていると言いますが（厚生労働省「国民生活基礎調査」2014年7月15日 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/dl/gaikyou.pdf> 最終確認日：2020年5月1日）、アメリカでも5人に1人が十分な食事のとれない状況にあると、作者のあとがきにありました（p. 236）。

貧困の問題を子どもの本で扱うのは難しいところがあり、読んでいて辛く感じる部分もありますが、ジャクソンがそれを乗り越えようと1歩踏み出す姿を子ども達にも伝えたいと思い、この本を紹介しました。「貧困」という暗いテーマの中で、クレンショーがユーモアのある猫として描かれているところは、ホッとさせられます。

## ■学校・友達

学校や友達は、子どもの本の定番のテーマです。毎年多くの本が出版されています。

最初に紹介するのは、『手と手をぎゅつとにぎったら』（佼成出版社）。小学4年生のわたるはクラスメートと共に、学校行事の準備のため、初めて特別支援学校を訪れます。そこでわたる達と一緒に行事に参加するのは、知的障害のクラスの子も達でした。自分が通う学校とは異なる特別支援学校の様子や、そこで学ぶ子ども達に対し、わたる達は戸惑います。それでも交流を重ねるうち、お互いに心を通わせることが出来るようになっていきます。特別支援学校のことが丁寧に描かれていて、ぜひ、子ども達にも読んでほしい1冊です。

『昔はおれと同じ年だった田中さんと友情』（小峰書店）。スケボーが大好きな6年生の拓人。しかし、いつも行っている公園が「スケボー禁止」になり、仲間2人と共に神社の前へ。そこで神社の管理人をしている、田中さんという85歳のおじいさんに出会います。スケボーに興味を持った田中さんですが、転んで怪我をしてしまいます。拓人達は親にこっぴどく怒られ、田中さんが治るまで、お世話を命じられます。最初はしぶしぶ通っていた3人ですが、田中さんの穏やかな人柄に触れ、次第に通うことが楽しみになっていきます。そんなある時、田中さんはこの町で空襲があったことを拓人たちに話してくれます。1945年8月15日の未明、熊谷大空襲の後、帰って



く飛行機が余った爆弾をこの町に落としていき、23人の人が亡くなりました。その数を聞いた子ども達は「少ないな」と言います。でもその時、田中さんは言います。「その二十三人のうちの二人は、わたしの母と妹だったよ」(p. 81) 田中さんのことを、もっとちゃんと知ってもらいたい。拓人達は、学校で田中さんに戦争体験を話してもらうことを計画します。田中さんを紹介するために行った事前のインタビューで、「好きな食べ物は何？」という問いへの田中さんの答えは、拓人達の胸にじんと来るものでした。少年達と田中さんとの、世代を越えた友情が心に残る作品です。

## ■戦争と平和

「戦争と平和」というジャンルから紹介するのは、『夏に降る雪』(フレーベル館)。小学6年生の大河は、父親のリストラが原因で、母の実家がある長崎に引っ越します。本当は引っ越したくなかったという思いがあり、友達も作れないままでいた大河に、母は戦争をテーマにした演劇に参加するよう薦めます。そこで主役に抜擢され、大河は戸惑います。引っ込み思案で演劇の経験もない上、劇団には苦手なクラスメートもいます。しかし、不安や不満を抱えながらも、大河は少しずつ劇に魅かれていきます。そして、仲間とともに、戦争を知らない自分達がこの演劇で何をすべきかを考えていきます。

演劇の舞台となったのは、長崎に実在する「無窮洞(むきゆうどう)」という大きな防空壕です。この遺跡の存在も伝えたかったという作者の思いが、あとがきに書かれていました(p. 223)。

## ■ファンタジー・SF・冒険

「ファンタジー・SF・冒険」というテーマでいくつかご紹介します。『嵐をしずめたネコの歌』(徳間書店)。イギリスの海沿いにある小さな村が舞台。そこでモーザーという猫が、年取った漁師のトムとのんびり楽しく暮らしていました。ところがある年の冬、激しい嵐がやってきて漁が出来なくなり、村には食べ物が無くなってしまいます。「クリスマスがくるというのに、ごちそうもなく、村の子どもらは、はらをすかせている。かわいそうで、とても見てられんよ」(p. 30) 心優しいトムは漁に出る決心します。モーザーとトムが村を救うお話です。

この作品は、イギリスに古くから伝わる伝説が元となっています。1990年にイギリスで絵本として出版されたものを、児童文学の形に作り直したそうです(「訳者あとがき」(p. 62)より)。緻密に描かれた挿し絵も魅力的です。この本の薄さから、低学年に薦めたくなるかもしれませんが、内容や表現から見ると、中学年以上が読者対象となると思います。

『月の光を飲んだ少女』(評論社)。主人公のルナは、生まれてすぐに村のおきてで魔女のいけにえとなります。ところが、森に捨てられたルナを救ったのは、いけにえを欲しているはずの魔女。魔女はいつもこうやって村の赤ん坊を救っていたのです。魔女は、ルナのあまりの可愛さに見惚れ、魔法の力が授かるという満月の光を飲ませてしまいます。

ルナの成長とともに大きくなる魔法の力。ルナはどうなるのでしょうか。独特の世界観と流れるような文章が魅力的なファンタジーです。

アンドロイドが人間に代わり、介護や接客の仕事に就くのが当たり前となった近未来が舞台の『つくられた心』(ポプラ社)。政府の「理想教育委員会」の発案により、いじめの無い、理想的な

教育を目指したモデル校が作られることとなりました。少人数教育、ハイテク設備、スーパーセキュリティシステム、そして、クラスに1人、見守り係としてガードマンのアンドロイド「ガードロイド」がいるらしい。ガードロイドは、人間そっくりの外見を持つばかりでなく、「つくられた心」をも持っていました。

そんなガードロイドのいるモデル校に入った6年生小野ミカの視点で、彼女のクラスの様子が描かれています。見守り係は誰なのか？疑心暗鬼のクラスメートたち。確かにいじめや問題は無いけれども、仲良くなった友達すら疑ってしまう学校生活に、ミカは嫌気がさしてしまいます。

近い将来、本当にこんな学校が作られてしまうのでしょうか。いろいろ考えさせられることの多い作品でした。

## ■復刊・再刊・新装版

今年も、復刊・再刊・新装版として出版された作品がいくつかありました。『もりのゆうびんポスト』は、2007年そうえん社から刊行された作品のリニューアルです。今回、続編の『もりのともだち、ひみつのともだち』も出版されましたので、一緒に紹介します。どちらもほのぼのとした物語です。

もう1つは『ムーミン全集 1 新版』（講談社）です。1990年に出版された『ムーミン童話全集』を底本として、新版が出ました。新版についての解説は本書にはありませんが、「現代的な表現、言い回しに整え、読みやすく」したことが、講談社のムーミン公式サイトに記されています（<https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000320437> 最終確認日：2020年5月1日）表紙には下村隆一さんが訳者とありますが、新版では翻訳も改訂されています（奥付より）。ムーミン全集は全9巻です。

## ■詩・和歌

「詩・和歌」から紹介するのは、『わくわく』（童話屋）。谷川俊太郎さんの「かっぱ」から、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」まで52編の詩が入っています。小学校低学年から大人まで、楽しめる詩ばかりです。是非、声に出して楽しんで！！という、編者の意向をくみ取って楽しんでもらいたいと思います。

『はじめての万葉集 上・下』（あすなろ書房）。元号が令和となり、その出典とされる『万葉集』に注目が集まり、多くの関連本が出版されました。中には「話題に便乗しているのでは？」と疑いたくなるようなものもある中、大人にも薦められる本です。万葉集を4つの時期に分け、135首の歌が収められています。挿し絵もきちんとしていて、古典の入門書として活用できるのではと思います。

## ■新シリーズ

続いて新シリーズを2つ。ニューヨークが舞台の『引っ越しなんてしたくない！』（徳間書店）。クリスマスの5日前、バンダビーカー家は突然、大家さんに部屋の契約の更新はしないと言われます。引っ越しなんてしたくない！バンダビーカー家の5人の子ども達は、部屋から姿を現さない大家さんを相手に、作戦を練ります。

個性的な5人の子ども達の奮闘ぶりがユーモラスな作品です。ただユーモラスなだけでなく、ほろっとさせられるところもあります。次はどんな騒動が待ち受けているのか、ちょっと楽しみです。

『ネバームーア』（早川書房）。呪われた子として生まれたモリガン。この世の不幸な出来事のすべては彼女に理由があるとされ、皆から忌み嫌われています。彼女は12歳を目前に死ぬ運命にありました。その時、彼女を救いに来たのがジュピターという謎の男。モリガンはジュピターとともにネバームーアという魔法都市に行きます。しかし、そこで生きていくには難しい試験に合格しなければいけません。はたして、モリガンはネバームーアで生き残ることが出来るのでしょうか。久しぶりにワクワクするファンタジーに出会った気がします。私の周囲では、「この物語の世界に馴染めない」という意見の方もいましたので、評価が分かれる作品かもしれません。生まれ故郷で忌み嫌われたモリガンが、ネバームーアで仲間に出会い、そのことが彼女の力となっていくところが、心地よく感じました。次回はどうなっていくのでしょうか。楽しい作品です。

## ■シリーズ続刊

「シリーズ続刊」から、2作品紹介します。『[あたまをつかった小さなおばあさん がんばる](#)』『[あたまをつかった小さなおばあさん のんびりする](#)』（共に福音館書店）。1970年に刊行され、長く読み継がれてきた作品『あたまをつかった小さなおばあさん』（出版社同上）の続編と続々編が出版されました。どんな問題も、頭を上手に使って切り抜けてきたおばあさんのお話です。ちよっぴりとんちんかんなどころもあって、思わず笑ってしまいます。これも、安心して子ども達に手渡せる作品と言えます。

最後に紹介するのは『[シャイローと歩く秋](#)』（あすなろ書房）です。本作品は、2014年9月に出版された『[シャイローがきた夏](#)』の続きです。前作をお読みになった方も、たくさんいらっしゃるかと思います。主人公はマーティという11歳の少年。アメリカにある、のどかな村が舞台です。前作では動物好きで心優しいマーティが、性悪なジャドという男の元から逃げてきた一匹の犬を助けます。その犬がシャイローです。ジャドの虐待を受け、人間を信じる事が出来なかったシャイロー。本作品では、マーティ一家に愛され、幸せな時間を過ごせるようになったシャイローの姿が描かれています。一方、性悪なジャドは、ますます性悪になっています。マーティたちは身の危険さえ感じるほどで、読み手もハラハラドキドキでした。そんなジャドが危機に陥った時、マーティはどうしたのでしょうか。イベント「子どもの本 2014」フィクションの部において、私が前作を紹介した際、「犬を思う、少年のまっすぐな気持ちがよく伝わってくる作品です。また、その少年が、家族の深い愛に支えられていることも伝わってきました」とコメントしました。今回はさらにこう付け加えたいです。「家族の愛に支えられた心優しい少年は、犬だけでなく、性悪な大人の心をも変えてしまうことに心打たれました」ラストシーンは泣けます。

(了)